国語科学習指導案

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　研修グループＢ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　安芸高田市立甲田中学校　粟　津　良　子

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　安芸太田町立加計中学校　山　際　紗　月

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　三次市立三次中学校　　　佐久間　彩　海

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　庄原市立東城中学校　　　高　木　春　香

１　日　時　令和５年10月３日（火）第３校時

２　学　年　第２学年Ａ組　男子６名　女子４名　計10名

３　単元名　扇の的 －「平家物語」から

４　単元について

（１）単元観

　　本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）国語第２学年の〔知識及び技能〕（３）イの指導事項「現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。」〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ読むことの指導事項「オ　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。」を受けて設定している。

　　本単元で扱う「平家物語」は琵琶法師によって語られた平曲であり、七五調を交えた和漢混交文で綴られている。平家の栄華と滅亡を描いた軍記物語で、描かれているものは、戦いの様子ばかりではなく、貴族から武士の世界へ移る時代の人々の状況や生き方、苦悩であり、人の生き方について深く考えさせる場面が多い。「扇の的」は、若武者が一人前の武士になるための葛藤、武士としての最高の晴れ舞台での覚悟、源平の運命を決める不安、対句表現を用いて感じられる臨場感など、その場に生きていた人々の「覚悟」や「決断」「決心」などがわかる描写が多い。現代に生きる生徒自身の経験と異なる考え方やものの見方に触れることができると考える。これらのことから、本単元のねらいである「自分の考えを広げたり深めたりすること」の力の育成に適した教材であると考える。

（２）生徒観

　　本学級の生徒は、１年時に「竹取物語」を学習し、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すなどの基本的な知識や技能は定着している。また、小学生のときから、百人一首に親しんでおり、古典に対する抵抗は少なく、興味関心をもって取り組む生徒が多い。１学期に行った「枕草子」では、清少納言のものの見方や考え方に驚きをもつ生徒が多く、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す力と、清少納言の季節感と現代の自分の季節感を比較して違いを読み取る力をみる単元テストの平均点は83点と、古典に表れたものの見方や考え方を捉える力は付き始めている。しかし、「自分流枕草子」の作成では、これまでの知識や経験と結び付けて、自分の季節感に理由をつけて考えをもつことにつまずく様子が見られた。

（３）指導観

　　指導にあたっては、以下の３点を工夫する。

　　１点目は、古典を学ぶ必然性を感じさせることである。古典の中には、現代のものの見方や考え方の共通点や相違点があることなどを、多様な視点から学ぶことで、古典を学ぶ意義を感じさせたい。また、古典を通してものの見方や考え方に触れたあと、並行読書により違うものの見方や考え方と比較することで、自分の考えをもたせたい。そのために、まずは古典に苦手意識をもたないように語注や現代語訳を参考にして、古典を読ませることに留意したい。

　　２点目は、対話の場面を設定することである。「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け自分の考えをもつ」力を育成するには、他者の考えやその根拠、考えなどの道筋などを知り、共感したり疑問をもったり自分の考えと対比することが必要となる。グループや全体で自分の考えを述べたり、他者の意見を聞いたりする中で比較・吟味し、自分の考えを広げ、深めさせたい。

　　３点目は、ICTの活用である。自分の考えをもったり、記述したりすることに困難がある生徒はICTで他者の考えを参照できるように場面を設定する。

５　単元の目標

⑴現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ろうとすることができる。〔知識及び技能〕（３）イ

⑵文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり 深めたりすることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ読むこと（１）オ

⑶言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

６　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 敦盛と自分が選んだ本の登場人物の「覚悟」の比較をして考えたことを伝え合うことを通した指導【言語活動例　イ】 | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（（３）イ） | ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（Ｃ（１）オ） | ・粘り強く登場人物の言動の意味を考え、学習課題に沿って登場人物の言動から考えたことを伝え合おうとしている。 |

<評価の具体及び手立て>

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 評価規準【「おおむね満足できる」状況（Ｂ）】単元 | | 「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した生徒への指導の手立て |
| 思考・判断・表現 | ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 | 『平家物語』の「敦盛の最期」では、「扇を上げて招きければ、招かれてとつて返す」という行動から、敦盛が位の高い武士として最後まで戦い抜く覚悟を決めたことがわかる。また、名を名乗らないまま「ただ、とくとく首をとれ。」という発言から、自身の死を悟り、潔く受け入れようとする覚悟を決めたことがわかる。これらの描写から、敦盛は、武士として恥は見せたくないという強い思いや、名高い平家一門のプライドをもっていると考えられる。  　『モチモチの木』では、「豆太ほどおくびょうなやつはいない」と評される豆太が、苦しむじさまを見て「イシャサマヲ、ヨバナクッチャ！」と発言する場面から、豆太が暗いとうげみちを一人で下る覚悟を決めたことがわかる。「だいすきなじさまのしんじまうほうが、もっとこわかったから」という描写からもわかるように、豆太は、自身の恐怖よりもじさまを救いたいという思いを強くもっていると考えられる。  　敦盛と豆太の共通点は、追い詰められた状況において、個人の思いや恐怖よりも自身が背負っている人々を守るために行動するところだ。私はこれまで、宿題をし忘れてしまったときに正直に先生に伝えることが大きな覚悟だと思っていた。しかし、私の場合は、追い詰められた状況ではあるが自分一人だけの問題であり、二人のように周囲の人々に影響する問題ではなかった。これらをふまえて、覚悟とは「困難な状況に置かれたとき、自分よりも周囲を守るために勇気をもって行動を起こそうと心構えをすること」だと考える。自分一人の問題ではなく周囲を巻き込む問題に関わる方が、強い覚悟が見られるのではないかと考えた。 | 事前学習で、与一や敦盛の「覚悟」について、同じようなまとめ方を指導しておく。  他者参照できるようにICTを活用する。 |

７　指導と評価の計画（全７時間）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学　習　内　容  〇＝学習目標  ・＝学習活動  ★＝学習課題 | 評　　　価 | | | |
| 知 | 思 | 主 | 評価規準・評価方法等 |
| 一 | １ | 〇「覚悟」について、考えや経験を伝え合おう。  〇「平家物語」の特徴を理解しよう。  ・登場人物の言動から「覚悟」について考えたことを伝え合うという言語活動を説明し、この単元において必要だと思われる知識を振り返ったり、学習計画を立てたりする。 |  |  |  | ※この時間も指導・評価はするが、「単元の評価に入れない」部分が出てくることもありうる。 |
| ２ | 〇扇の的のあらすじを捉えよう。  ・「扇の的」の場面を音読するとともに、現代語訳や語注などを手掛かりにしたり、源平が置かれている状況を調べ、あらすじを捉えたりしている。 | 〇 |  |  | ［知識・技能］  ・我が国の言語文化に関する事項について、現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。【ワークシート】 |
| 二 | ３ | 〇与一の「覚悟」について、考えよう。  【学習課題】  ★与一の「覚悟」はどんなものだったのだろう？  ・与一が悪条件の中で「的を射る」という行動と前段の辞退の話を踏まえて、与一の「覚悟」について考える。 |  | ○ |  | 〔思考・判断・表現〕  ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。【ワークシート】 |
| ４  ５ | 〇「敦盛の最期」のあらすじを捉えよう。  〇他の場面での登場人物の言動の意味を考えよう。  （本時）  〇「敦盛の最期」の敦盛の「覚悟」と、与一の「覚悟」を踏まえ、「覚悟」について考えよう。  【学習課題】  ★あなたの考える「覚悟」とは何ですか？ |  | 〇 |  | 〔思考・判断・表現〕  ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。【ワークシート】【スライド】 |
| 三 | ６ | 〇「平家物語」をまとめよう。  【学習課題】  ★「平家物語」の学習を通して、「覚悟」とはどんなものだと考えるようになったか、自分の経験も踏まえて伝え合おう。 |  |  | 〇 | 〔主体的に学習に取り組む態度〕  ・粘り強く登場人物の言動の意味を考え、学習課題に沿って登場人物の言動から考えたことを伝え合おうとしている。 |
| ７ | 〇色や音に着目して表現の効果を考えよう。  ・作品に用いられている表現の仕方を捉え、聞き手（読み手）にどのような印象を与えるか、その効果を考える。  〇「覚悟」をテーマに本を読み、評価問題を解こう。 |  | 〇 |  | 〔思考・判断・表現〕  ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 |

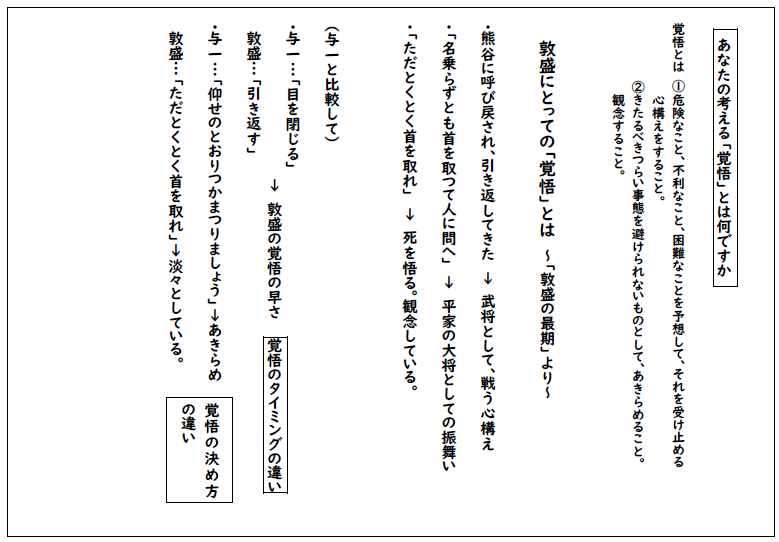
８　本時の学習

（１）本時の目標

・「敦盛」の「覚悟」について理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【思考・判断・表現】（１）オ

（２）学習の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | ・＝指導上の留意点  ※「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て | 評価規準と  評価方法 |
| ○前時の復習をする。  ・与一の「覚悟」を振り返る。  ・「敦盛の最期」のあらすじを振り返る。  ○学習課題を確認する。  〇「敦盛の最期」の原文を音読する。  〇「覚悟」の辞書的意味を確認する。  〇現代語訳の範読を聞き、「覚悟」がわかる箇所に線を引く。 | ・「覚悟」の言葉の意味を改めて押さえておく。  ・「敦盛の最期」のあらすじを押さえておく。  ※ICTを活用し、学習活動の時間を確保する。  あなたの考える「覚悟」とは何ですか？　～敦盛の「覚悟」を通して～  ・学習課題について考える手がかりとして、「敦盛の最期」の「敦盛」にとっての覚悟について考えることを伝える。  ・歴史的仮名遣いに注意させる。  ・時間を区切り、できるところまで読ませる。  ・該当部分に線を引かせる。  ・理由を考えさせる。 |  |
| 〇敦盛の「覚悟」について考え、まとめる。  ・敦盛の言動からわかる敦盛の「覚悟」について書こう。  〇班で交流する。１回目  〇班で交流する。２回目 | ・線を引いた箇所を明確にして、理由を述べるように指導する。  ・他者の意見を聞きながら、共通点や相違点を見つけるように指導する。  ［予想される生徒の反応］  ◇熊谷に呼び戻されたときに引き返してきたという敦盛の行動から、敦盛は武将として敵に後ろを見せることはできないと考え、熊谷と戦う心構えをしたことが読み取れる。  ◇敦盛が熊谷と組み合って負けたときに「名乗るまじいぞ」「名乗らずとも首を取って人に問へ」と言ったことから、最期まで平家の大将としてふるまおうとしたことが読み取れる。  ◇敦盛が熊谷と組み合って負けたときに「ただとくとく首をとれ」と言ったことから、敦盛が自分の死を悟り、観念したことが読み取れる。 |  |
| 〇敦盛の「覚悟」と与一の「覚悟」を照らし合わせながら、吟味し、「覚悟」について考える。 | ※ICTやホワイトボードを活用し、共有できるようにする。  ［予想される生徒の反応］  ◇与一は「目を閉じる」ことで覚悟を決めていたが、敦盛は「引き返した」ときから覚悟していたので、割と敦盛の方が、割り切りが早かったのだと思った。「覚悟」するタイミングは人それぞれだけど、困難に立ち向かう姿勢が覚悟することだと思う。  ◇与一は辞退することをあきらめ、「しからば、当たり外れはとにかく、仰せのとおりつかまつりましょう。」と義経の命令に従う覚悟を決めたけれど、敦盛は「ただ、とくとく首を取れ。」とあるので、淡々と覚悟を決めているように感じて怖い。確かに、行動するために覚悟をするけれど、覚悟の決め方の違いがそれぞれあるのだと思った。 | ・敦盛の言動を原文もしくは現代語訳から適切に引用し、そこから考えた「覚悟」について自分の考えをもっている。〔思考・判断・表現〕（ワークシート） |
| 〇学習を通して、自分の「覚悟」について振り返り、交流する。 | ［予想される生徒の振り返り］  ◇二人の「覚悟」を比較してみて、私は与一の覚悟の仕方に近いと思った。結構、行動に移すまでに時間がかかることが共通していると思った。  ◇二人の「覚悟」を比較してみて、私はそれぞれの覚悟が理解できると思った。行動する前はいろいろなことを考えるけれど、いざやろうとなると「なんとかなるでしょ。」と割り切ってすることがあるから。  〈振り返りの手立て〉  ・「平家物語」の登場人物と比較させる。  ・グループで交流させる。 |  |

（３）板書計画